



ほけんだより

2023年 9月
沼袋西保育園
看護師

暑い日が続いています。気温の高すぎる日は、熱中症予防のために屋内活動をしています。

夕方になってもまだ 30℃以上、という日もありますが、あたりが暗くなると、秋の虫の声もあちこちから聞こえてきます。季節は少しずつ進んでいるようです。

6～7月に流行があったヘルパンギーナやRSウイルス感染症は、中野区内での流行は収まりました。新型コロナウイルス感染症は、現在第9波と言われる流行のピーク中です。楽しい行事や遊びの後は、疲れが残りやすく体調不良につながります。体調を整えて暑さを乗り切りましょう。

子どもの転落事故に注意！落ちるまではあっという間です。事前の対策で事故防止を

転落事故は落ち始めて地面に着くまであっという間です。見守っていても、保護者が目を離さずにいることは難しく、すぐそばにいないければ止めることは困難です。

重大な事故を防ぐためには、子どもの転落事故の特徴を知り、事前の対策を取ることが大切です。

家具等からの転落

- ・0歳を中心に低年齢の子どもで発生。
- ・受傷部位は頭が多い。
- ・保護者が目を離れた際の転落が目立つ。

対策

ベビーベッドに寝かせた際は、転落防止柵を常に上げる。一時的であっても、ソファ等の高さのあるところに寝かせない。



窓やベランダからの転落

- ・3歳～8歳を中心に幅広い年代で発生。
- ・頭を中心に広範囲を受傷。
- ・高所からの落下は生命にかかわる重大なけがにつながる。

対策

子どもが勝手に窓を開けたりベランダに出ないように、手の届かない位置に補助鍵をつける。窓やベランダの手すり付近に、足場になるような物を置かない。小さな子どもだけを家に残して外出しない。窓を開けた部屋やベランダでは、小さな子どもだけで遊ばせない。



抱っこ・おんぶ等からの転落

- ・0歳で多く発生。
- ・受傷部位は頭部がほとんどである。

対策 抱っこ紐で前にかがむ時は、必ず子どもを手で支える。抱っこやおんぶをする時、降ろす時は、低い姿勢で行う。バックルやストラップを適切に閉める。



遊具からの転落

- ・3～8歳を中心に幅広く発生。
- ・受傷部位は頭や腕が多い。

対策

施設や遊具の対象年齢を守る。ひもやフードが付いていない服を選ぶ。リュック等を身につけたまま遊ばない。6歳以下の幼児には保護者が付き添う。



階段等からの転落

- ・1歳前後に多く発生。
- ・頭を中心に受傷、全身を打撲する場合もある。

対策 ベビーゲートを正しく取り付け、常に締めてロックをかける。



消費者庁による子どもの事故情報では、入院を必要とする事故のうち3割が転落事故でした。その半数以上が頭部を受傷し、比較的低い所からの転落であっても頭部の骨折や頭蓋内損傷の事故が発生していました。また、調査では、育児経験がある約4割が子育て中に転落事故の経験があると回答しています。子どもの転落事故は各年代ともに多い事故のひとつに挙げられ、日常生活の中で多く発生している様子がうかがえます。(消費者庁 HP)

9月の保健行事

5日(火) 身体計測: 幼児クラス

6日(水) 身体計測: 乳児クラス

14日(木) 9:30～ 秋の健診: 0・1・2歳クラス / 0歳児健診

28日(木) 9:30～ 秋の健診: 3・4・5歳クラス / 0歳児健診

*秋の健診について: 10月に予定していましたが、都合により、9月に実施いたします。

登園時間のご協力をお願いいたします。